酒田っ子すくすく子育て講座 第152回

東北公益文科大学 名誉教授 **國眼 眞理子 先生**

「なぜ」「どうして」「あれなあに」

「どうして寝なくちゃいけないの」「どうして雨は降るの」「(夕焼けのとき)どうして空が赤くなるの」。

3歳を過ぎたころからフーちゃんは日々「なぜ」「どうして」とママやパパを質問攻めにしています。また電信柱や店の看板などを見ては「なんて書いてあるの」「あれ、読んで」を連発します。

忙しいときや疲れているときに、何度も同じようなことを聞いてきたり、知らないことだったり、あるいはすぐには答えにくいことだったりすると、正直に言うとヤレヤレとため息をつきたくなります。

こんなとき往々にして、その場で正しく答えなければと考えがちですが、まず「不思議だね」「フーちゃんは『どうしてかな』って不思議に思ったんだ」と受け止めてみてください。

もし知らないことなら「ママ(パパ)もわからないな」と言ってもいいですし、子どもが少し大きくなってからなら「わからないから一緒に調べてみようか」とか、あるいは関係する絵本の助けを借りるのもよいでしょう。

3歳～6歳ごろは、言葉が発達してくるとともに、いろいろなことに興味を持ちはじめ「知りたい」「知ることが楽しい」時期です。

そして多くの場合、知りたい気持ちと同時に「ママやパパと話したい」気持ちがあるようです。ママやパパが忙しそうにしているときに「ねえねえ、○○ってなあに」「どうして」と尋ねてくることはありませんか。また同じようなことを何度も聞いてくるのは、知っていても確かめたい、「そうだよ」と背中を押してほしいためであることがしばしばです。

やりとりを通して、好奇心を育むとともに、親子のコミュニケーションを楽しんでください。

日本海と大地がつくる 鳥海山・飛島ジオパーク リレーコラム 水と命の循環

第142回

問 観光物産課にぎわい創出事業係 ☎26-5759

第9回アジア太平洋ジオパークネットワーク(APGN)国際シンポジウム

9月7日から10日にかけて第9回APGN国際シンポジウムがマレーシアのランカウイユネスコ世界ジオパークで開催されました。22か国から590人が参加したこのシンポジウムには、日本から11のユネスコ世界ジオパークと3つのユネスコ世界ジオパーク認定を目指す地域の関係者など、計58人が参加しました。

口頭発表では、主任研究員が令和7年度鳥海山・飛島ジオパークのエリア内で実施した、来訪目的を問うアンケート調査の結果を紹介し、来訪目的を知ることがジオツーリズムを推進する上で重要であることを訴えました。またシンポジウムの期間中は、日本のジオパークを紹介するブースの運営に加え、インドネシア・韓国・フィリピン・中国・香港のジオパークスタッフと、教育活動や海岸清掃活動、拠点施設における相互展示など、実質的な連携事業の推進の可能性について、直接意見交換を行いました。

なお本シンポジウムには、室戸(高知県)や隠岐(島根県)といった国内のユネスコ世界ジオパーク地域から高校生が参加しており、自らの取り組みを英語で発表する姿がユネスコ関係者に強烈なインパクトを与えていました。

本シンポジウムは、今後ユネスコ世界ジオパークの認定に貢献する活動を推進する上で、大いに示唆に富んだ場となりました。



▲国際シンポジウムに参加した日本人参加者



閉会式で、Mine秋吉台地域(山口県)がユネスコ世界ジオパークの認定証を受け取りました。
おめでとうございます!

一般社団法人
鳥海山・飛島ジオパーク
推進協議会事務局
次長兼主任研究員
大野 希一氏